いわき民報

發行所
いわき民報社
平市田町一番地（電話三八一番）
編輯兼發行人 印刷人 千葉克己
日刊 但月曜日を除く
定價 一ケ月 五円 一部二十錢

開業
内科 小兒科 性病科
矢吹醫院
平市鍛田町（舊白土醫院跡）
矢吹大一郎
電八二八番

海へ！ 海へ！ 賑ふ各濱
けふの日曜日も絶好の天氣
濱では浴客の吸引策に大童

快晴と燒つくやうな猛暑の連續に、いよいよ本格的夏氣分が横溢、街は涼しさを誘ふ硝子玉暖簾とアイスキヤンデー屋の氾濫狀態だ、この暑氣にすつかり磐城七濱も海水浴客で賑ひ初め、二十日の土曜日あたり四倉、小名濱の兩驛を初め各海水浴場驛はドツと押寄せる浴客の洪水に毎列車とも乘切れぬ超滿員の有樣だつたが、二十一日の日曜日は海水浴はじまつての初の日曜日であり、小名濱測候所の豫報によると明日は南東の風弱く時々雲も擴がるが大体快晴の好い天氣で、山添へ地方には夕立もあるかも知れず、海上はおだやかとのことであるので一層の混雜も豫想されてゐる

は一倍力を増すものである、尚今夏は終戰後初の海水浴であるだけに相當賑はふものとみられるので、戰時中休止してゐた脱衣場、湯呑所、休憩所等の無料サービスを行つて浴客の吸引に努めることになつた、その他のサービスについても目下旅客課で種々計劃準備を急いでゐる

新客車二輛も購入
小名濱臨鐵のサービス振り

小名濱臨港鐵道では最近乘客の激増と、海水浴季節となつたのでサービスと雜踏緩和のため十二萬圓を投じ、埼玉縣川越市の東京電機車輛工業から今度新客車二輛を購入、組立を急いでゐたがいよいよ完成した、新車は双方共六十人乘りとある、現在同鐵道で使用中のものは四十人定員一臺、三十八人一臺、四十八人二臺、六十六人一臺の五臺であるので新車二臺の加はること

外食券食堂
濱へ増設
四倉濱の諸準備

終戰に依る緊張と同苦しい束縛から解放されて今夏は久方振りに海水浴客で賑はふものとみられてゐるが、四倉町ではこれに備へ早くも諸準備に遺憾なきを期し浴客の希望に副はふ計劃を進めてゐる、先づ同町三業組合では全町で現在外食券食堂は僅に二軒を數へるのみで、このまゝでは到底浴客の希望に應へ得ぬことは明かなので、期間中特に浴場附近に食堂を增設することに決定した、又町當局では各種傳染病の徹底的豫防と絶滅を期し、安心して樂しみ得るやう町の清掃と衞生の強化をはかると共に、大いに立看板やポスターに依る四倉濱の宣傳に努め浴客の吸引策を講ずると[illegible]、更らに四倉驛でもたゞさへ昨今列車の混雜してゐる折柄なので浴客の殺到により萬一忌しい事故でも起してはと驛長の指揮の下に、驛員總動員で事故防止に當ることゝし乘客の整理その他の訓練に努めてゐる

大道異變
平 中背二

▼濱通り一圓サクサクたる高評を博して、多數のキンツバ屋をして顔色なからしめた、平市の名物『角二燒』にも異變が訪れた

▼物がなくなる。公定價格が出來る。配給は圓滑を欠ぐ。企業整備の叫びはあげられる。

▼と共に、角二燒を初めてから毎月々々の收支決算をすると、算盤ではピタリと一割儲けになつてゐるが、元金は減る一方。

▼お菓子賣りとはオカシなものだ、奇怪な話だとよくよく研究して見ると、何ぞ知らん、賣る物以外に、家庭内で消費するのが計算に入つてゐない。

▼『角二燒』の御主人夫婦は誠に俠的な人で、その頃から困つてゐる者は誰彼の別なく、自宅に引取つて我が子同樣に育てたものだ。

▼今でも此の一家には七家族、五夫婦も住んでゐる。大きな空家を持つてゐても貸さぬやうな冷血動物的な家主とは異る。多くの空いた部屋があつても開放せぬやうな人とは全然別だ。

▼とにも角にも、それ等の連家族の青年や少年は、我の方で練り上げた羊羹のやうなアンコを大茶腕に盛つて食ふ。『風呂の中でも食つたナー』『便所にかくれて食つたこともあるぞ』と、張本人達が、昨夜もお互に笑つたほど明朗であるが。

▼更に店先で燒けるのを待つてゐる人々にはお茶を出す。漬物を出す。計算の一割儲けは、この男氣と愛情とで、元金は全部獻金の始末。

▼閉店と聞いて銀行も會社も官衙も、殊に學生の如きは不平滿々『是非やつてくれ』と泣き込む『小豆を持つて來たら作つて貰ひ度い』『砂糖を持つて來たから是非』等々、三拜九拜されるのには參つたとの話。

▼開いただけでも涙がにじむ…但し、その時、同業者の人々から『やめる迄にいくら損したか』と質問されたといふ。

豐作豫想の初秋蠶
養蠶家の意欲も極めて旺盛

市郡下の初秋蠶の掃立は十八日三阪澤渡をトップに川前、田人と續いて二十日迄に大部分完了遲場も兩三日中に終る見込みである、掃立量は二万三千六百九十瓦だが天候の順調さに桑葉の發育も良好であり、且つ蠶業振興會の助成指導、さては三眠迄の稚蠶委託飼育配給の實施等々に依り諸條件に惠まれた上、養蠶家方面の意氣込みも盛んなので收繭目標九千貫は樂で、現在の調子でゆけば一萬貫の收繭もみられ、完全に春蠶の不足も取りかへし得るのではないかとみられてゐる、尚晩秋蠶は八月三日から五日にかけての掃立で掃立量は二萬二千瓦、收繭目標は一萬貫程度の豫想である

未歸還軍人軍屬の調査

陸海軍人軍屬で未だ歸還せぬ者について平市では八月一日午前零時現在で調査を實施する

鈴木磐城聯盟委員長辭任す

海外引揚同胞磐城聯盟理事長鈴木茂雄氏は一身上の都合により十九日辭任同時に縣聯盟理事長も辭めた、磐城聯盟では次期總會まで大野友春副委員長が委員長事務を執行することに決定した

教員組合態度強硬
廿二日縣の回答が注視の的

教員組合の縣の單一組合が去る十六日結成されると同時に危機突破資金五百圓給與、教育行政刷新會の設置、三月末日に遡上つて一齊に二十四增俸、組合役員の授業輕減、教員の定數增加の四項目の要求を提出、万一容れられぬ場合は教育行政管理に乘出すことゝなつてゐる、この縣の回答は二十二日迄の期限つきなので果して如何なる回答を縣が提出するか頗る成行を重視されてゐる

四倉の町葬

四倉町新町出身故橋本陸軍大尉外三柱の英靈は十六日歸還したので二十一日午后一時から國民學校で町葬を執行する

炭礦加配米
復元決定
二十日から實施

肥料とのバーター制がお流れとなり成行を憂慮された炭礦勞務者の加配米問題は農林省食糧管理局からの指令により、枠外の入米なくとも縣の手持米でいよいよ二十日から六月以前の通りに復元されることになつた、これにより勞務者は六合家族は三合となる譯で、今后の出炭には相當の好果を齎らすものとみられてゐる

内郷町でも
教員援護
一萬五千圓募集

内郷町では十八日午后一時から全町役場會議室で區長、常會長の緊急協議會を開催さきに町會で決定した學校教職員の生活補助金壹萬五千圓の寄附募集並に實施案縣立農學校及訓盲院の全町割當金に對する寄附案の實施等に付き協議即日寄附活動に入る事に決定した

好間川取入口
砂上げ開始

平水道も漸く涸渇

水不足も一時解消したものゝ最近の旱天續きに又々不足を告げ始め、平市の上水道すら漸く涸渇狀態を示して來たので、このまゝでこの炎暑に飲料水にもこと欠くが如きことあつては一大事だと市水道課では鈴木主任以下總動員で人夫を督勵十八日早朝から水源取入口の好間川の砂上げを開始した、尚萬全の方法はとるが市民も極力水の節約をはかられたいと常會を通じ市民に呼びかけることにもなつた

農家の利用者も遂に出る
平市公益質屋にみる世相の反映

最近の世相の反映を公益質屋に見ると依然小商人の利用が最大で遂に農家の利用者が出て來たのが目立ち最初農漁村に溢れた新圓の行方は今は漁村だけに落ちついてゐるらしい、職業、貸付狀況、辨濟狀況を見ると

（括弧内辨濟）

勞働者二二（一四）、俸給生活者二四（二二）、小工業者五〇（三三）、小商人九九（四七）、農業者四（一）、漁業者〇（〇）其他四七（二三）計二四六（二〇八）

尚四月以降の累計は四六七（二一五）とあり六月分の利用は斷然四、五月分の合計よりも多い又入質種類はやはり衣類が第一で家具四（八）、裝身具四（八）衣類七三二（四九二）、其他五（八）合計七四五（五一八）で債務は影をひそめ金額も一萬三百五十一圓の貸付に對し辨濟は六千四百七十七圓で鰻上りの一途である

麥酒の配給
一戸へ一本づゝ

お盆用特配として二十四日前後に一戸へ一本のビールが配給される一本三圓

木材の評定
廿一日植田町で

地方事務所では郡下各林産出張所長平木工組合、平地區木材組合、森林組合、磐城貨物自動車等々の代表に平、植田、兩警察署關係者も參加木材の生産進駐製材等々の諸計劃の打合せのため二十一日午後一時から植田町役場で協議會を開催

引揚者救濟に
土建會社
磐城聯盟幹部を中心に結成さる

海外引揚同胞磐城聯盟の鈴木茂雄、大野友春、緑川三代喜、松崎宏、松井淳、絹崎貞雄、佐藤良十の七氏は引揚者及び一般の失業對策として有限會社共榮土建興業所を創設事務所を平市月見町に設置、八月早々事業を開始するに決定した、將來は合作會社にまで進展せしめる計劃であるが引揚者の自力更生の途へられる折柄最も機宜に適した企てとして各方面から大きな期待をかけられてゐる

漁業懇談會
廿三日江名町で

二十三日午後一時から江名町漁

いわき言

▼例年より七分も高温おまけに終戰により解放された喜びは食糧の危機もどこへやら海へ海へと吸引する、殊にけふは日曜日さぞかし磐城の各濱は雜踏することであらう、時節柄事故なぞ起さぬやう各自にも御注意

▼平の公益質屋の盛況からみると今まで新圓のダブついてゐるとみた農家からの利用者も遂に出た、新圓はいよいよ濱へと流れ又流れたか

▼教員組合の態度強硬二十二日の回答によつては教育行政管理にも出るとある。たゞ兒童達に妙な空氣を浸み込ませぬやう切に祈る

▼初秋蠶の掃立ほぼ終了豐作見込みとある心強い限り油斷あるなかれ

國鐵までが値上げとは

五百圓生活はいよ〳〵苦境へ

増稅案が決定發表されると同時に郵便料金が二十五日から値上げと來た、そこへ又ぞろ國鐵の値上げが協議されてゐると傳へられる、新發足の鐵道會議では、當面の赤字十三億の穴埋めに先づ貨物運賃を現行の三倍に、旅客運賃を現在の二割五分程度に引上げることを答申した、旅客の運賃値上げがこの通り二割五分となると現行の一キロ當り八錢が二錢上げの十錢となる譯で大衆に與へる影響はかなり郵便料金の引上げと共は大きなものがある、この鐵道の値上げは即時私鐵、バスにピンと反映するし、貨物自動車や荷馬車の運賃にも響いて、それが直接に物價面に天文學的數字で現はれることは請合、かくて物價が抑制され、インフレが阻止されて暮しよくなる筈だつた新圓生活が、逆にインフレの逆行となり大衆をいよ〳〵苦痛のどん底に叩き込んでゆく結果となつて來るのである、救はれぬのは下積みの大衆ではあるこんな狀態で大衆が救はれるのは果していつの日か？――思へば心佗しいものである

獨身者が一ヶ月半
妻帶者が一月分を

勤勞所得の稅額は

増稅の内容は昨報の通りであるが、勤勞大衆の絶對反對も輕く一蹴されて逆に百分の十八から百分の二十に、二分もピンと跳ねあげられた勤勞所得は、五百圓の破り得ぬ固い枠にはめられた勤勞大衆には最も痛いところであるが、果してこの增稅が大衆のふところにはどう響くか？月收五百圓を基準として、獨身者の場合、妻子四人の世帶主の場合についてみると先づ

◆獨身者の場合

五百圓の收入から二百圓の基礎控除をすると三百圓が殘るこの三百圓に新稅率の百分の二十をかけると六十圓の稅額となり年を通ずると七百二十圓となるとある

◆妻子四人の世帶主の場合

矢張り收入五百圓から二百圓の基礎控除で三百圓、これに新稅率百分の二十をかけると六十圓となり、基礎控除と同樣さきの大幅引上げにより扶養家族の控除も据置かれたので、家族一人當り六圓、四人で二十四圓を除くと三十六圓となり、年を通ずると四百三十二圓といふ算出となる

以上の通りで獨身者は年を通じ一ヶ月半振りを、妻子四人を有する世帶主もざつと一ヶ月振りを、汗の所得の上前のお取上げを受けることになる、これに伴つて地方稅もあり、物價の騰貴と來ると到底五百圓では如何にしても食へぬことになる、大衆は常に虐げられるのかといひたくなる

綜合所得の稅額は

さてこの所得がグンと增して一萬圓を越えるとなると今度は綜合所得稅が、のしかゝつて來る、この場合を例にとつてみると、年收一萬五千圓とするならば獨身者が年に納める稅額は四千二百七十圓となり、妻子四人あるとなると年に三千九百八十二圓となる、收入が多いといつてもこれではなか〳〵に食へぬ事ではある

大藏當局も考慮か

新圓からの稅金差引の痛手から

前例の通りの高稅となるので五百圓生活の行詰つた枠の中では新圓から金をひかれることは眞に苦しい限りである、五百圓以上の收入があつて封鎖支拂分のうちから封鎖小切手で稅金を拂ふ場合と、五百圓に滿たない收入者がポンと新圓で稅を取り上げられる場合を比較すると稅額はたとひ少くとも痛手は新圓をもつてゆかれる方が遙かに大きい、この點については大藏省當局でも、調査の上で障碍が大きいやうなら金融措置の方で何とか便法を講じたいといつてゐるが果してどんな便法が出るか、早く明示して貰ひたいものではある

生活と文化

聽潮庵雜記

―役所民主化私觀―

筒井榮

（2）

現在の政黨で最も民主的であるべき社會黨や共産黨の內部で勢力爭ひや、昔の財閥政黨の樣な感を第三者に與へるといふ事は結局頭だけは或は口先だけは民主的な立派なことをいふが、精神は封建性をまる出しにしてゐるとしか考へられぬ。況して軍國日本の良吏であつた官僚陣を民主化するといふ事は一寸考へると木に據りて魚を求むるるの類である。然しかういふ風にかたづける事は公式主義であつて、之では建設といふ事が何もなくなる。そこで私は自分の經驗から民主化運動に對して近視眼的の提案をしたいと思ふ。私は醫師であつて毎日患者の診療に從事してゐる。即ち病院、醫院といふ名稱はともかくとして私達を訪ねて來る人人には何か肉體的な苦痛に滿ち滿ちてゐる人達だと考へて然るべきであらう。或人達には全快といふ好ましい結果をもたらすが、或人達には之と反對の場合もなきにしもあらずといふ有樣である。そして私達は醫業に從事してゐる個所に於ては常に責任者である。私達の一寸した見損が豫記しない事態を招し、少しの注意が永年の病苦を拂ふといふ事がある。而も私達醫師は病人に面接し喜や苦痛を分つてゐる。勿論醫業の遂成の爲には事務員や看護婦、藥劑師といふ人々の協力を必要とする然し大綱は私達醫師が第一線に立つて從業者病人を掌握してゐる事は勿論である。又たとへ理論上見込なしといふ病氣に於ても最後まで鬪病の志をまげない出來る限の努力を惜しまない。之の事を官公署の現在のあり方と較べて見ると面白い對稱を觀ぜられはしまいか。官公署の一番奧にはその官公署の一番責任者が日常事務をとる部屋がある又各部にはその部長たるべき人の事務室が特にもうけられてゐる。又各課にはその責任者の席は常に奧深かくして民衆の聲のとゞかないあたりにある。そして民衆と接する窓口といふあたりには年はも行かぬ若い人達か女事務員であつて之に私達民衆が思ひつめて、考に余つて頭を下げて相談するとしても一段高い窓のうちから一かつのもとにやりこめられて引下る外はない

開放

投書を歡迎す
要望批判結構
紙上匿名可

小名濱信組長の橫顏

▼…信用組合長小濱長太郎氏は小名濱町有志家中、形而上にも形而下にも大先輩、大元老として崇敬を拂はるべき年號に弐し、所謂孔夫子の六十にして年順、七十古來稀なりと云ふ處に手を屆きたる今日、その古祝に貸きて却つて三ツ兒の魂百までとか云ふ諺に漏れず、昔の氣風依然として抱懷し、一種の畸形的型とも言はるゝ事は氏のためには甚だしき矛盾であると言はねばならぬ

▼…市街地信用組合と言へば何れの市街地に行つても一市街の金融機關の元締であり、其長たるものは市町村長と其席次を甲乙出來ない地位に置かるゝものなることは言を俟たぬ。小濱君にはこの重厚さを覺めむとしても覺め得ず、却つて昔日の物質慾のためには地位も名譽も顧みないと云ふ態度、言動に出つる事は遺憾とさるゝ處である

▼…過般小野理事が一ケ年振りで認可となつた際に小濱組合長の心盡しから顏合せと云ふ觸れ込みで役員會を其樓上に催し、無理に酒肴を整へて小宴を張つた、其席上で或役員から組合長の報酬以外生活補助や物價手當は受けべきものでないとの談に突入した際、彼は「家庭上の支出が嵩むで新圓生活では當然やり切れぬ、殊には日勤役員は物價手當や生活補助も支給を受くる事が可能である」と云ふ主あると非難さるゝのも無理でないと云ふ結論に到達するのであると云ふ良張を堂々と述べて居る

▼…これ彼れが昔そつくりの考へ方其儘で地位や名譽を物質の前に叩頭せしむる定例である。今日彼の收入は組合から僅か百圓內外の物價手當てが無いとしても、牛乳の每度の收入、屋賃の每月の收入、土地代の每年の收入、これを一ケ月に割當てた場合、恐らくは千圓位のものである筈だ。是れだけの收入あればこそ、一千万圓を擁する信用組合と任せて二萬五千町民が安心して居るのではないか

▼然るに其收入を勝手に過小額に見積り、組合からの零細の收入に目を呉れて生活の補助たらしむる處に彼の物質慾の旺盛な金錢以外に抱藏する施策がでる

▼…此の放言に對して列席せる役員は現に一ケ月百圓乃至三百圓の收入なき爲め、生活困難だと云ふにあつては信用組合の長として一任し得ずとの意見が一致し、アワヤ組合長の頭のツケ替問題が惹起したのであつたが生活補助打切りで問題は一先鳧をつけたのであるが、組合長たるものは自己を顧みずに組合自態の利益の爲めに奔走する事に依つて其功績は敬仰され、每月の收入は或は僅少でも將來に向つての貯蓄である筈だ。此点の消息をもう少し研究して以て其職に當るでないと踵を接いで問題が簇生する恐れがある。沈思默考の要がある事を進言して擱く

祝小名濱支局開設

小名濱町役場
町長　志賀要平
助役　長瀨國三郎
收入役　野崎昇太郎

小名濱警防團
團長　御代龜太郎
副團長　黑澤廣
副團長　橋本佐多壽

小名濱町會議員
堀越大治郎
三代義勝
遠藤喜三郎
野崎貞行
立花秀吉
小野義一
鈴木正
佐藤貞吾
小野直千賀
飯塚新四郎
鈴木治作
竹原太津彌
佐藤政治
小野禮一
樋口速
高木忠治
長瀨彰義
小野作太郎
丹忠義
村上重一
小野長壽
馬上喜一
野崎啓之助
伊藤三男
高木嘉一郎
比佐政種
金澤勉

齒科醫院隣組
木田醫院　小名濱
鈴木醫院　仝
小松醫院　仝
仲野醫院　仝
村上醫院　仝
門馬醫院　仝
佐々木醫院　泉
樋口醫院　仝
今村醫院　住吉
平國醫院　江名
鈴木醫院　江名

立憲養正會
總務　齋藤晃　住吉

戰死者遺家族援護會
會長　小野一
顧問　若松惣吉
事務所　中島